

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第七期第4回生涯学習推進協議会小委員会
事務局(担当課)		文化商工部学習・スポーツ課
開催日時		令和6年1月12日(金)午後7時～8時40分
開催場所		としま区民センター404会議室
議 題		・豊島区における生涯学習の評価について 質的变化を評価し、測る視点を見つけるため、インタビュー形式での3人の区民からの聞き取り調査の実施。
公開の 可否	会 議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 各委員の感想及び意見を忌憚なく発言していただくため。
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	高井正(会長)、中上亜樹(副会長)、齋藤知明
	そ の 他	区民3名(審議経過では、A氏・B氏・C氏とする)
	事 務 局	学習担当係長(生涯学習)兼社会教育主事、生涯学習指導員

ビジョンの評価について

- ・ 事業評価を成果評価で行う
- ・ 数量で表さない質的評価

インタビュー形式で聞き取り調査

- ・ 今までやってきたことの振り返り
- ・ 変化したターニングポイント

聞き取り調査の方法

- ・ 学習を継続している 3 人のマナビト生を対象に、会長、副会長、委員の 3 人が同時にインタビューを行い、学びの変化や気づきを聞き取る。その後、小委員会で評価の視点を明らかにしていく。

(聞き取りの対象者)

・ Aさん

年少まで豊島区にいて社会人になって戻ってきた。つながりができたらとマナビト生に参加。活動としては「ああそうなんだ倶楽部」を主宰して活動が広がる。街歩きや講演会の参加者から「面白かった」と言われるが励み。町内会では区民ひろばの運営協議会もやり、頼まれれば断れない、巻き込まれるタイプ。

・ Bさん

5年前に退職を機に豊島区にきた。仕事をしている時は、地域やコミュニティとは何か？という疑問や考える回路は持っていなかった。豊島区に戻ってきて、コミュニティに何かあるはず、何か考えないと思い、広報としまを見て情報を得た。参加の出発点はフレイルサポーター、アクティブに関わりたいと、介護になる前の通所サービスのボランティアである介護予防リーダーや町内会に参加。

・ Cさん

2014年に豊島区に。会社と家との往復で地域に知り合いもないので、マナビトに応募した。マナビト3年目の時に、外国人とのやりとりに興味があり、学習院大学の多文化共生講座を受講した。そこで地域で学んだことを活かしたいと、一緒に学んだ先生と仲間で日本語教室を立ち上げて活動をしている。

会長

3人の方のお話は、学びのつながりが、人づくり、つながりづくりとなり、自分が生き生きとし、地域も生き生きとする実感がした。仲間と一緒に活動をしていることが大事。

学ぶ中で、仲間との関係性が変わってきたことや気が付いたことはありますか？

Aさん

町内会は目先の行事をこなす事に追われている。マナビト生が多く関わっている「ああそうなんだ倶楽部」というグループを立ち上げ、現在は無料の講演会や街歩きの活動を行っている。活動の時間が長いので、意見が合わなかったりぶつかることもあるが、ぶつかることでお互いが深まる。自主性もあり、少し深い関係の仲間。町内会の関係はここまではいかない。

会長

ボランティア活動は自主的に行っているが、本当にぶつかり合うことがお互いに深まるきっかけとなることもあり、Bさんは、自主的にやっている活動で、考え方が違ったりする時はどうですか？

Bさん

フレイルサポーターとして、月に4回～5回活動をしている。大元は東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）の全国フレイルチェック活動だが、実施の仕方など細かいところまでは決まっているわけではなく、各自の解釈の違いが出てくる。フレイルチェックを導入している全国約100自治体のなか、先進的なモデル自治体としての豊島区であり、取り組みについては他の自治体との連絡を取って「どう連携しているの？どうやっているの？悩みは？」と情報交換の場もある。自分たちの活動だけを見ているだけではだめで、他からの情報で考え方の幅を広げることができる。情報交換はタネにする仕組み、つながる仕組みとなる。一緒の目的とする地域の中では、社会人で培ったことを活かしていることもあるが、町会のように自由な中ではそれがうまくいかないこともある。

会長

Cさんは、学習院大学で一緒に学んだ学生2名や社会人の方との活動も長くなってきていますね。関係はどうでしょうか？

Cさん

学生の方も社会人となってからも活動を続けたいと言ってくれているのは本当に助かる。若い方の活動は会には必要で、SNSの発信を担ってくれている。私たちが意見の食い違いで言い合いをしても、若い人はにこにことして、意見の食い違う箇所を見つけて、若者目線で意見を言ってくれる。会社の組織とは違い、今まで知り合わなかった人と会えるコミュニティは良い経験。自分の中でも広がりが出てきて、今まで知り合えなかった人とつながることで人間的に成長ができるのかなと思う。外国人の方が困った時に相談してくれるような存在になって、外国人の方も住みやすい地域となれば良いと思う。

会長

学びや活動をする中で、物の見方や考え方が今までと違って見えてきた、変化したことはありますか？

Aさん

自分の変化は特に求めてはいないし、自分が理想と思える人もいない。活動に参加している人や外国人の方にも楽しんでもらいたい。相手が喜んでくれれば自分がやったことがよかったという自己評価はどんどん高まる。

Bさん

変化したのは自分自身の観点。今まで地域の対応していたのは妻であり、これは大変だとこちらの見方が変わった。

会長

Bさんと一緒に活動している人の変化はどうですか？

Bさん

男性が少ない。ボランティア活動は9割が女性。男性は地域で全然活動していない。女性の中でのせめぎあいと解決方法を柔らかく伝えて効果があると、よかったと思うし、お互いが変わる影響を与えているかもしれないと思う。

会長

自分も変わる、相手も変わるという相互関係にあり、一緒に学ぶ、長い期間活動するという大事な仲間に変化はありましたか？

Cさん

一人で考えるより良いアイデアが出て、考え方を受け入れることもでき、言い合える関係にもなっている。仲間は日本語教室を続けようという共通の認識があるので、思いを共有しているからやっていける。

会長

団体のミッションを共感できるかどうか、仲間と出会えるかどうか、社会教育の中での言葉「共に学び、学びあう」ということを実践していますね。

委員

『図書館通信』の書評や『としま学びスタイル』の成果物が出来上がるのは嬉しいですか？印刷物は人に配りますか？

Aさん

特に印刷物になったからと言って嬉しくはないが、指導する先生は「足跡を残す」と言っている。自分の書いたものを読み返すことはしないが、先生からは変化があるとされる。

会長

自分ではなかなか気が付かない変化。学生の毎回のコメントペーパーを見ていると、どんどん変化しているのが分かる。先生のやり方は宿題としては大変だけど、書き続けることの意味や自分の変化を感じることの大事さがある。

会長

学び続けることの大切さはどうでしょう？

Aさん

違う経験を持った人と出会えて横のつながりができる。深まるためには一緒に活動をする。活動が増えると参加者も増えて広がっていく。

会長

活動を担っていく原動力は？

Aさん

参加者が楽しんでくれること。

Bさん

人が持っている力、周りの人の資源を活用する。関わることによって元気になる。

Cさん

日本語教室の中で学習者同士が知り合いになり、外国人もネットワークが広がっていき、私たち日本人も学習者から学ぶことも多く、相互の学びあいが地域で行われていることで、外国人が楽しそうにしていることで私たちも嬉しい。

会長

相手のことを見て、人の嬉しさやそれを感じたりすることが原動力となっている。課題に向けて取り組んでいくような自主的な活動で「よかった」と思うことが自己評価の尺度となっている。

副会長

他の人に喜びを見出している皆さんは、元々外交的な性格なのか、人のために何かをするのが好きなのか、誰でもそうなののでしょうか？

Aさん

社会人の経験からではないか。

Bさん

他の人の喜びは一人一人違うので、その喜びに接した時は新しい発見やきっかけになるのかもしれない。

会長

自分が喜ぶことが一番大事。自分が喜ぶこと、周りの方が喜ぶのが嬉しいのかも。

Cさん

相手も自分も嬉しいは双方向にある。これは社会人となってからかも。

会長

活動をやってきて、時々立ち止まったり、振り返って改めて考えたりすることはありますか？

Aさん

困難に直面した時。

Bさん

つながり、大きな外の視点を入れていくことの大事さ。

Cさん

小さな振り返りの積み重ねと次へ向かうためのみんなでの振り返り。

会長

自分の変化の確認。さらなる学びの必要性。

活動を続けるための活動を実現するための学びがある。

会長

学ぶための意味とは？

Aさん

人に紹介する活動のため、学習を提供する。自分にもプラス。

Bさん

学び続ける、学びに終わりはない。

いろいろな方との出会い、他の方の力が発揮されて自分の原動力となり、よい循環が生まれている。異なった分野やつなげることで新しい価値が生み出される。

Cさん

教材として日本のことを説明するとき、日本人だけど日本のことを知らない。知らなかったことが多くある。学び続けて終わりはない。

会長

学ぶこと自体が活動であり、学ぶことで他の人とつながり、一緒につながり生きている、と感じる話をきくことができた。

会長

地域の中で今の生活の形を作った、今に至る自身のここで変わったというターニングポイントは？

Aさん

生涯学習を知ることによって始まり、自分のやりたいことが明確になった。

Bさん

教育は自分自身を高めるためのものでその機会に限度はない。

ターニングポイントは、NPO 法人で働いたこと。根底から見方が変わった。

Cさん

豊島区に来て、としまコミュニティ大学のマナビトになったことと、やさしい日本語の講座に参加したこと。最初の講座で書いた自分の夢が、ここで実現しつつある。

3人のマナビト生から聞き取りをしての感想

委員

経験を他の人に伝えること、学ぶ側と教える側の転換点、学びや活動を継続していかないと今日聞いたことは生まれないと思った。このような話を学生にも聞かせたい。

副会長

どうつながっていったのかを詳細にきくことができ、またつながっている他の方はどう感じているのかを聞き取っていくと、本当にいい横のつながりが見えていくと思った。

会長

学び続ける、活動を続ける中で嫌になることもありながら、それを超える嬉しさや喜びがあることや、このような方が豊島区を作っているというお話を聞くことができ、またこれからいろいろな展開ができると感じた。お話から質的な学びの視点を整理して、整理したものを読んでいただき、意見もいただきたい。

<p>会 議 の 結 果</p>	<p>3人の区民へのインタビューを通して、質的变化を評価し測る視点を見つける一助となった。インタビューから、質的評価を測る視点をまとめとして報告する。</p>
------------------	---